

P-232 臨床病期I期非小細胞肺癌の術前CYFRA値の意義

筑波大学附属病院 呼吸器外科¹⁾, 筑波大学 臨床医学系 外科²⁾, 筑波大学 臨床医学系 内科³⁾, 筑波メディカルセンター病院 内科⁴⁾

○鈴木久史¹⁾, 石川成美²⁾, 佐藤浩昭³⁾, 石川博^{1,4)}, 酒井光昭¹⁾, 小澤雄一郎¹⁾, 佐藤幸夫³⁾, 山本達生²⁾, 鬼塚正孝²⁾, 榎原謙³⁾

【目的】臨床病期I期非小細胞肺癌での術前CYFRA値が、切除後の病理病期や予後を反映するかどうかを検討し、手術適応を考える上でCYFRA値が考慮に入れるべき因子であるかどうかを検討することを目的とした。

【対象, 方法】1994年8月以降に当施設にて切除された臨床病期I期の非小細胞肺癌のうち、術前に血中CYFRA値を測定した症例を対象に、CYFRA値と術後病理因子および生存率について検討した。

【結果】臨床病期I期の非小細胞肺癌104切除例中、術後病理病期I期は68例、II期15例、IIIA期11例、IIIB期8例、IV期2例であった。術後病理病期別に術前CYFRA値を比較したが有意差は認めなかった。pT1症例群のCYFRA値は 1.44 ± 0.09 ng/ml, pT2症例群は 2.95 ± 0.84 ng/mlであり、pT1とpT2症例群間でCYFRA値に有意差が認められた($p=0.004$)。しかし、pN(-)症例群($n=77$)とpN(+)症例群($n=27$)ではCYFRA値に有意差は認められなかった。また、カットオフ値で分けたCYFRA <2.5 ng/ml群($n=87$)とCYFRA ≥ 2.5 ng/ml群($n=17$)間において生存率の差は認められなかった。

【結語】臨床病期I期非小細胞肺癌での術前CYFRA値は術後病理病期や予後を反映するものではなく、高値であっても手術適応外とする必要はないと考えられた。